



SEITOKU

# 生涯学習研究所だより

## Contents

- ◆ 所長挨拶
- ◆ ご案内 第18回聖徳大学生涯学習フォーラム  
「多世代の交流を通じた“まちづくり”を目指して」
- ◆ 「ジュニア夢カレッジ2」企画メンバー座談会  
「学生時代の多様な大人との出会い」  
学生と大人が共にイベントの企画・立案をする価値って？
- ◆ 地域サポーター・生涯学習研究所事務局からのメッセージ
- ◆ 「ジュニア夢カレッジ2」詳細・お申し込み方法
- ◆ 卒業生の今 Part. 2
- ◆ 研究・実践活動レポート

VOL.

3

発行／聖徳大学生涯学習研究所  
編集長／長江曜子  
編集支援／有川かおり、谷由美子  
発行月／2016年11月

〒271-8551  
千葉県松戸市松戸 1169  
聖徳大学生涯学習社会貢献センター6階  
TEL 047-365-5691  
FAX 047-365-5692  
MAIL frontier@seitoku.ac.jp



アートパーク9～にちようびの野望～

## 所長挨拶



### “おかげ様で18年”地域に開かれた聖徳大学生涯学習研究所をめざして

聖徳大学生涯学習研究所所長に就任して、丸2年が過ぎました。生涯学習という、「幸福な人生の実現のための学習」の意味を見直し、地域に開かれた拠点としての研究所の意義を考える毎日です。

生涯学習は、かつて高齢者の学習と据えられていた時代がありました。しかし、今や0才から100才以上生涯にわたって、①自ら磨き自己の充実を図るもの②技術、知識を得る学び直しリカレント教育③地域創生、社会貢献、まちづくりの3つの視点が重要と考えられています。

今年度生涯学習研究所は、7月アートパーク、11月生涯学習フォーラム、12月ジュニア夢カレッジ(キャリア教育)を開催し、子どもから高齢者までの学びの世界と、地域課題解決のための各種課題別研究会の充実を、図ってまいります。ぜひ、一緒に18年の歴史を刻むこの研究所で、新しい出会いをしませんか。

聖徳大学生涯学習研究所 所長

長江 曜子

## ご案内 第18回生涯学習フォーラム 「多世代の交流を通じた“まちづくり”を目指して」

今回は、「多世代の交流を通じた“まちづくり”」を生涯学習・社会教育の視点から考えてみませんか？講演では、沖縄大学名誉教授の加藤彰彦氏をお招きし、「多世代の交流を通じた“まちづくり”」について、ご自身の研究・実践活動を通じて出会った事例を交えながらご講演いただきます。

講演後は、参加者と共に今後の地域コミュニティの在り方について議論します。皆様お誘いのあわせの上、ご来場ください。

記

日時：2016年11月19日(土) 14:00～16:30

会場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター(聖徳大学10号館)14階

参加費：無料

定員：100名(事前申し込み不要)



### ホームページ・公式 Facebook のご案内

聖徳大学生涯学習研究所の最新情報は、ホームページ・公式 Facebook にて公開しております。ぜひご覧ください。

<ホームページ> <http://www.tunagari.jp/>

<公式 Facebook> <https://www.facebook.com/seitokusyougai/>

## 小中学生向けキャリア教育イベント



2015年度から実施している「ジュニア夢カレッジ」を、今年度も実施することになりました。「ジュニア夢カレッジ」とは、子ども(小中学生)と大学生双方のキャリア教育を目的としている事業です。産学官民が協力しあい、「プロ」から「本気」で、仕事の「楽しさと厳しさ」を学ぶ機会を、子どもたちに提供することを、目的としています。今回の座談会では、40名いる学生企画メンバーを代表して、4名の学生に「学生時代に多様な大人と出会い、共にイベントの企画・立案をする価値」について語ってもらいました。

## 「学生時代の多様な大人との出会い」

## 学生と大人が共にイベントの企画・立案をする価値って？



### 関わったきっかけ ～踏み出す勇気～

**長江** 今日は集まって下さってありがとうございます。まず学生の皆さんに、「ジュニア夢カレッジ」の企画に関わったきっかけを伺いたと思います。

**池田** 昨年度の「ジュニア夢カレッジ」のリーダーをしていた菅原さんに、「子どもと関わるイベントだよ！楽しいよ！」と言われて、初期メンバーとして関わりました。もう2年ですか…感慨深いですね。

**佐々木** 今年のリーダーの池田さんに誘われたのがきっかけでした。人見知りなので、そういう自分を変えたいと思っていた時に声をかけてもらったので、挑戦しよう！と思いました。「まずは様子だけ見に行こう」と思って会議に参加したら、先輩たちが本当に楽しそうでビックリしちゃいましたけど(笑)

**渡辺** 私は最初、昨年度までいらっしゃった齊藤ゆか先生の授業の一環で関わりました。終了後に実施した保護者と子どものアンケート結果を見て、評価が高かったのが、すごく嬉しかったです。今年度は池田さんに誘われました。去年のアンケート結果を思い出して「地域に必要とされていることなら、やってみよう！」と思い、関わることにしました。

**今泉** 私のきっかけは「生涯学習論」という授業でした。その時に、池田さんと、あてなさんという先輩に誘われて「やってみようかなあ」と思ったのがきっかけです。やってみたら、幅広い学部・学科の先輩たちとの交流を持って、とても楽しかったです。

**長江** 皆さんの話に共通するのは「一步踏み出す」ということですね。なかなか一步を踏み出すのが難しいのですが、挑戦してみたら面白かった。素晴らしいですね。



第1回学生会議(2016年6月27日)の様子



**長江 曜子**  
児童学科教授  
生涯学習研究所所長

明治大学大学院博士後期課程修了、共立女子大学大学院人間生活学専攻博士後期課程修了(学術博士) 日本近現代文学が専門で「宗教と文学」を研究。後に、日本と世界の葬送文化研究を通して、少子高齢社会の研究の範囲を広げている。



**有川 かおり**  
生涯学習研究所助手

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士前期課程修了(社会デザイン学修士) 「昭和の縁側のような、人と人が緩やかに繋がる社会の形成」を目指し、研究と実践の両面からアプローチをしている。研究キーワード:地域社会、ネットワーク、まちづくり



**池田 美咲**  
児童学科4年

本企画の学生リーダー(昨年度から参画)。関心分野は社会心理学で、現在「性格特性と作り笑いについて」の卒業論文を執筆中。生涯学習研究同好会(リリーズ)で仲間と共によきこいソランを踊ることに夢中。



**佐々木 真歩**  
文学科3年

本企画の学生副リーダー(昨年度から参画)。幼少期からの夢である「図書館司書」になるため勉強中。図書館が、他の生涯学習施設と連携し、学びの好循環を創る拠点の一つになれば良いと思っている。本企画で、社会連携の方法論を学びたい。



**渡辺 梨沙子**  
文学科3年

本企画の学生副リーダー。昨年度から参画している。関心分野は、日本古典文学(特に中古文学)。「地域の特性と社会教育事業の関連性」に興味がある。本企画で、サポートして下さる松戸の方々とお話することで、住民の生の声を聴きたい。



**今泉 優香**  
総合文化学科1年

今年度から参画しているメンバー。将来は漠然と「人のためになる仕事」がしたいと思っている。今回の企画では「そもそも人のためとは？」という、本質に向き合ってみよう。趣味は読書で「有川浩さん」「上橋 奈穂子さん」の作品が好き。



昨年度のジュニア夢カレッジの様子

## 与えられるのではなく、自ら創る難しさ

**長江** 企画を立てる上で、どんな苦労がありますか？

**池田** 企画メンバーの学生に連絡をしても、反応が悪いことがあり、少し気になっています。それ以外は特にありません。学生という「守られている立場」「失敗が許される立場」で、色々な挑戦をさせていただけていることは、本当にありがたいです。

**長江** 昨年度との違いは、2日実施したものを1日にしていることとか、職業の選定、組織作りまで学生が主体となってやっていることだと思います。企画を立てていく上で、どんなイベントにしたいと思っていますか？

**渡辺** 私が今年度関わった時は、「実施日」「体験職業」は決まっています。前提となる部分の議論に加わることはありませんでした。でも、昨年度のアンケート結果にあった「人や時間の流れの悪さ」は改善し、昨年度より良いものにしたいです。

**長江** 昨年度より良いものにしたい。とても良いですね。今泉さんはどうですか？関わってみて、何か発見などあったら教えて下さい。

**今泉** 私は、途中から関わったので、ほとんど内容が決まっています。でも、そこに至るまでの内容を、学生と一緒に決めていくことを知って、ビックリしました。今まで私が関わってきたものは、先生のおぜん立てがありました。でも、この企画は、先生方の後ろ盾のもと、学生が企画しているので素直にすごいと思うし、学びも多いと思います。



「エンジニア」講師の方との打合せ風景

**長江** 佐々木さんは、実際に企画に参画してどうですか？

**佐々木** 昨年度関わった時は、打ち合わせ等も済んだ後半からの参画だったので、そこまで深く企画立案に関与することはできませんでした。でも、今回は早い段階から参画しているので「開閉講式の段取り」「人員配置」等の改善もしていきたいです。

**長江** 「授業」と「この活動」を両立するのは大変だと思います。何か、時間のことで工夫していることはありますか？

**池田** なるべく多くの人が集まれる、放課後に会議を設定するようにしています。LINEでグループを作って、会議の出欠をとるようにしていますが、会議に出てこられる人は固定化してしまっていますね。そこが少し悩みです。

**有川** 池田さんは、休んだ人に対して丁寧フォローしていますよね？その日のうちに、LINEのグループに議事録をアップしたり、欠席した学生に連絡を取って「欠席者向けの振り返り」を一人一人実施したり、本当に丁寧に、メンバーに向き合っていて、いつも良いなと思っています。

## 社会人の方との関わりから学んだこと

長 江 企画が進んでくると、講師の社会人に企画書を持って協力交渉に行かなくてはなりません。しかも、相手は100%ボランティアです。したがって、このイベントに共鳴・共感してもらって「お金で買えない価値」を講師の方々に感じてもらうなければならない。すごく高度なことをやっていると思うのですが、社会人の方々と実際に関わって学んだことはありますか？

渡 辺 今年度は、経験者として組織のマネージメント側にまわっているの、直接交渉に行くという機会は減りました。なので、昨年度の話します。私は昨年度、ピアニストの方のところに交渉に行きました。「音楽で生計を立てたい人は沢山いるけど、現実には簡単な世界ではない」ということを、子どもたちに伝えたいとおっしゃっていたのが、非常に印象的でした。

佐々木 私は昨年度、有川さんと一緒に新京成電鉄株式会社に行きました。訪問させていただいたら、既にプログラムを作っていたことに驚きました。

長 江 良い会社ですね。地域に密着して、ローカルな会社や団体ほど、熱い物をもっていますね。今泉さんは、実際に講師の大人に交渉に行くのは怖くないですか？

今 泉 交渉なんて、今まで一度もないので正直どうしようという気持ちはあります。しかも、初めてなのに職業別のリーダーになってしまって…。でも、この間の会議で「名刺の渡し方講座」があったので、失礼の無いように頑張りたいと思います。有川さんも同行してくれるので、そこは安心ですけど(笑)

有 川 そこは、全力でサポートするから安心して下さい(笑)

長 江 今泉さんは短大生だから、来年にはもう就職活動をしなくてはならない立場で、みんなより少し早く社会人にならなくてはならない。そういう意味で、名刺の渡し方はすごく役に立つスキルなのではないでしょうか？

今 泉 「社会に出た時に、本当に必要なことを教えてもらっている」という感覚はあります。女子大学だから、普段は男性と関わる機会がどうしても少なくなってしまう。だからこそ、こういう機会に多様な社会人と関わることは、良い刺激です。

長 江 生きた学びを実践しているのですね。実際、社会人の方と交渉しながら「プロの厳しさ」等、自分自身が気付かなかったことで、気づかされたことはありますか？



自主的な「欠席者向けの振り返り」の様子

池 田 プロの方との関わりの中で、想いを「伝える」ということの重要性を学びました。人と関わる時は、精一杯自分の想いを伝えて、メモして、分からなかったら質問をすれば良いということを実感しました。あとは「とりあえずやってみよう」という気持ちですかね(笑)

長 江 普通だったら「とりあえずやってみよう」は、失敗することを恐れて、なかなかできませんよね？

池 田 私は、行動力が一番大事だと思っています。動かなければ、何も変わらない。今年度の私の目標は「身近な大人の良いところを発見し、自分のものにしていくこと」です。昨年度より、イベント自体も、自分自身もバージョンアップしたいです。



大人（地域サポーター）・学生・職員で開・閉講式会場の見学の様子

## 学生にとっての学び、参加者にとっての学び

長 江 以前にあった「児童学科生涯学習指導者コース」「生涯教育文化学科」でアクティブラーニングを実践してきた3名の卒業生(有川さん、谷さん、秋戸さん)が、このイベントを学生主体で企画立案できるようにコーディネートしています。有川さん、学生たちに何を学んでほしいと思って、コーディネートをしていますか？

有 川 沢山のことを学んでほしいと思っていますが、今年度は導入教育として、そもそも「働く」ってどういうことなのか？ということ、かなりの時間をかけて学生と議論しました。もちろん、社会に出る前の学生にとっては難解な問いですが、この部分に向き合うことをしなければ、このイベントを学生が企画する価値が半減すると思っています。また、成長を学生自身が可視化できる仕組みとして、学生と共に「企画立案を通して何を学びたいか」という調査票も作成しました。これは、事前と事後に実施する予定です。

長 江 本質的部分を、しっかり議論した上での企画立案なのですね。学生の目線から、参加する子どもたちに何を学んでほしいと思っていますか？

佐々木 こういう企画に参加する子どもって、何かしらの想いがあるとします。私の場合、子どもの頃から一貫して「図書館司書」という夢があったのですが、そういう子ってなかなか少ないと思います。だから、夢を見つけるきっかけになってくれたらと思っています。あとは、子ども同士はもちろんのこと、講師と子ども、学生と子どもが交流を楽しめたら良いと思っています。私のような、内向的な子も一緒に楽しめるようにしたいです(笑)

長 江 キーワードは「きっかけ」ですね。今泉さんはどうですか？

今 泉 私も「きっかけづくり」という側面が大きいと思いますが、参加者の子どもたちは、自ら体験する職業を決めて来るので、少しでも興味の幅が広がるようなプログラムを提供したいです。参加者が、大きくなったら「イベントの企画立案からやってみよう！」と思ってもらえるのが、究極の目標ですね。難しいとは思いますが(笑)

池 田 私も「その職業を知ってもらうきっかけになってほしい」という想いはあります。ただ「楽しかった」ではなく、「刺激を受けて帰って行ってほしい」と思っています。社会教育・生涯学習の領域に興味を持ってもらえたら、もっと嬉しいですね。

長 江 さっき渡辺さんが、昨年度は、子どもは勿論のこと、保護者の評価が高かったと言っていましたね。渡辺さんは、今年度、何をアピールしたいですか？

渡 辺 昨年度関わって、すごく感じたことは、講師の方々は、普段は営利で活動している方々なのに、非営利な社会事業にすごく真面目に関わってくれたことです。ですから、講師の方々が、お金以外の価値を感じてくれたのかなと思っています。子どもたちは、そんな大人の姿を見て、楽しみながら吸収してほしいし、子どもが楽しんでもらえば、保護者も「やらせてみて良かったな」と喜んでもらえると思います。

長 江 学生を含めて、講師になっていただいた方の熱い想いを感じますね。「お金以外の価値」もキーワードの1つになりそうです。



社会人の方（地域サポーター）を交えての企画会議

## 参加者する子どもたちへのメッセージ

長 江 先程、佐々木さんから出ましたが、皆さんの中に、子どもの頃具体的な職業意識はありましたか？

池 田 今回の参加者世代(10歳位)を考えると、ほぼ何も考えていませんでした。「その日を楽しく過ごす」ということに夢中でした。今回のイベントは、子どもたちの自発性を大切にしている、子ども自身が職業を選択して申し込んでくる。そういう、「学びたい！」と思って参加してくる子どもたちの期待に応えたいという気持ちは、強く持っています。

今 泉 私も池田さんと同じで、あんまり考えていなかったですね。「これやってみよう」という気持ちはあるのですが、言葉にするのが苦手で、いざ行動に移すことができない子どもでした。参加してくれる子どもたちの中には、言葉にするのが苦手だけれど、頑張って想いを言語化して参加した子どももいると思います。そういう子どもたちのサポートをしたいです。



グループで議論した内容の発表・情報共有

渡 辺 私も、あまり特定の職業に就きたいと思った経験はありません。むしろ小学生の頃「将来の夢」を書く時に、何を書いているかわからないし、考えることも辛かった記憶があります。また、壁に張り出されることも、周りの目が気になって嫌でした。「個性を出すのが恥ずかしい」という時期って、あると思うのですが、「将来の夢」を言うことが恥ずかしいことではなく、誇れるものになってほしいです。そのための支援をしたいですね。

佐々木 私も、自ら望んで申し込んできた子どもたちに対し、最大限の支援をしたいです。多様な人と関わる楽しさも、子どもたちに感じ取ってほしいです。

長 江 プロが一人一人、自分の就いている職業に誇りを持っていないから「子どもたちに伝えたい」ということは思わないですよ。そういう面でも、今回ご協力いただいている講師の方々は、その職業のプロであり、本当の意味でのスペシャリストなのだと思います。有川さんから、参加者の子どもたちへメッセージをどうぞ。

有 川 長江所長も今ふれましたが、今回の講師は、その道のスペシャリストの先生ばかりです。例えば新聞記者体験の講師は、新聞社の文芸部長を務めた重里徹也先生ですし、管理栄養士体験の講師は、テレビにも出ていらっしゃる小川聖子先生です。他にも、企業として「伊勢丹松戸店」「株式会社ディジック(アニメやゲームのイラストや動画の制作会社)」「菱重コールドチェーン株式会社」など、多くの個人・企業の方がご協力いただいています。「第一線のプロと子どもたちの出会い」は、素晴らしい経験になると確信しています。

長 江 昨年度のジュニア夢カレッジの時、子どもたちが、自分の体験内容を発表し、最後に「修了証」をキラキラ輝いた顔で受け取っていった姿が印象的でした。学生たちも頑張っています。ご興味をお持ちになりましたら、ぜひお申込み下さい。

全 員 参加申込みをお待ちしています！

※今回は、2016年10月24日に実施した座談会のダイジェスト版です。全文は、2017年3月発行予定の生涯学習研究所紀要への掲載を予定しています。

参加申し込み方法は、次のページをご覧ください！



「ジュニア夢カレッジ2」にご協力いただいている皆様から頂いたメッセージを紹介します。

体験の必要性などいろんなところで話されています。このジュニア夢カレッジもその一つ。参加する子ども達だけではなく学生も「企画」「実行」など自分で行動することで達成感を味わい、自信につながると思います。いろんな人と関わることで、自分を知るきっかけにも。一人一人違う歩幅でも、一歩前進できる機会になれるよう若者を応援する大人として関わっていきたく思います。

<NPO 法人松戸子育てさぼーとハーモニー 石川 静枝>

昨年から参加させていただき、学生のみなさんの一生懸命な姿や当日参加した子どもたちの輝く目を見て、この事業の可能性をとて感じています。普段の生活から一歩踏み出して新しいことに取り組むこと、多様な大人やプロとの出会いは、参加者だけではなく学生たちにとっても将来に大きな影響を与えるはず。大変なこともあるけれど、是非楽しんで取り組んでもらいたく思います。

<まつど市民活動サポートセンター長 阿部剛>

昨年度はOGボランティアとして、今年度はチームリーダーとして運営から参画しています。

スタート時点で、学生に自分自身の現在の力量について、自己評価してもらった結果、自己肯定感が低い学生が多数いました。この事業を通じて、学生たちの自己肯定感が少しでも向上するよう、支援していきたいと思っています。他大学生も参加しているので、互いに刺激し合い、良い講座を作ってほしいと思っています。

<板橋区社会教育指導員 秋戸巴美>

子どもは私たちの夢と未来です。今回お手伝いするようになって、さらにその思いを強くしました。「出会いと仲間・夢と希望・触発と学び」人が成長していくうえで大切だと思う事が「ジュニア夢カレッジ」にはすべて入っています。学生さんや私たち社会人のそのような思いを長く伝えていけたら素晴らしいと思います。そして私たちのような社会人も現在の学生さんや子どもたちから多くを学べる素晴らしい機会です。

<NPO 法人クリエイティブまつど工房理事長 榎本孝芳>

社会人になって随分と月日が流れた。最近つくづく実感することは、仕事は相手がいて成り立つということ。人の役に立つってどうのことか。どうすれば相手のためになるか。仕事に携わるとき一番大事なのは、そんな思いやりの気持ちかなと思う。これから社会に出る学生のみなさんが「相手の立場で考えること」を意識するきっかけにして欲しいと願い、この事業に参加させていただきます。

<元生涯学習研究所研究協力員 長谷川修一>

私が事務方として、またグループリーダーとして学生にしたいことは「今一歩踏み込むことができない人の、背中を押すこと」だと思っています。初めの一歩を踏み出すことは、学生だけではなく、大人にとっても勇気が必要です。しかし、ほんの些細な一言でも、踏み出す勇気や希望を与えることができます。私は、そんな学生の力になれるよう、一人一人と真摯に向き合い、ケアしていきたいです。

<生涯学習研究所非常勤職員 谷由美子>

生涯学習研究所は、1998年度の開所以来「学生参画」をメインテーマの1つに据え、実践・研究を進めてまいりました。学生時代に生涯学習研究所の実践・研究に関わった卒業生は、現在何をしていますのでしょうか。シリーズでお届けします。

第2回の「卒業生の今」は、聖徳大学人文学部児童学科生涯学習指導者コース卒業(2004年度)の橋本幸恵さんです。大学卒業後、聖徳大学生涯学習研究所に勤務し、現在は、東京都で小学校教諭としてご活躍です。そんな橋本さんに、小学校教諭としてのお仕事について伺いました。



■小学校教諭を目指したきっかけは？

母が小学校教諭をしているということが、直接的に影響をしていると思います。母は子どもが大きくなって、少し手が離れてから「臨時採用教職員(産休代替)」で教育現場に入りました。最初に母の働く姿を見ていた時の私は「いつも答案に丸つけばかりしている」「何だか大変そう」と思っていたのですが、いつの間にか楽しそうに働く母

の背中を追って、小学校教諭を目指していました。母の姿を見て、小学校教諭の仕事は「免許状を持っていれば、いつでも平等にチャンスがやってくる仕事」「女性が働き続けるには良い仕事」と思ったことも大きいです。



■なぜ生涯学習を専攻したのですか？

実は、どの専攻を受験するかを考えていた時、「社会福祉」か「生涯学習」かで、すごく悩みました。私は高校生の時に、社会福祉協議会のボランティアをしていて、老人ホーム等をよく訪問していたので、真っ先にうかんだのが「社会福祉」の領域でした。でも、聖徳大学のオープンキャンパスに行った時に、今まで自分がやってきたことが、実は「生涯学習」だったということに気が付いたのです。老人ホームへの訪問で出会う方々と高校生の出会いだっただけで生涯学習だし、事前事後の学習だっただけで生涯学習です。「生涯学習」の扱う領域の広さにひかれました。

■小学校教諭として大切にしたいことは？

高校生の時に行っていたボランティアの経験、大学時代に生涯学習を学んだこと、大学卒業後に生涯学習研究所で助手をやっていた経験から、「地域とのつながり」を大切にしたいと考えています。自分自身が子どもの頃、地域の大人とのふれあいの中で沢山のことを学んできたので、子どもたちには、地域の大人とのふれあいを大切にしたいです。

今までの経験から、そんなに抵抗なく自分自身も地域と関わることができています。いや、むしろ楽しんでいる部分も大きいかもしれません(笑)

■聖徳大学での学びとキャリア形成

もちろん教員免許取得のための勉強は、現在の職業に直結している学びでした。しかしあえて、教員免許取得のための勉強以外に視点を当てると、「人との関わり方」が一番学んだように思います。地域の方々とのコラボレーションしての企画立案や、最新の生涯学習に関する事例収集のために訪れた先で出会った人たちから、非常に多くのことを学びました。

多様な大人に出会い、多くの経験をさせていただきましたが、特に、1年生の夏に行った、長野県下伊那郡泰阜村の「泰阜村立学校美術館」が印象に残っています。この美術館の展示品は、昭和の初め、不景気の中、児童生徒の情操教育のため村民、教員、学校卒業生などの寄付により美術品が少しずつ収集されたもので、現在は、村立泰阜小学校の中に展示されています。当時の私は「地域の大人たちが、そこまで子どもたちのことを考えていること」にまず衝撃を受けました。そして、その美術館を案内して下さった村民の方の、「美術館を心底大切にしている気持ち」に触れ、「学校教育」と「生涯学習」双方の可能性を感じました。



研究授業の様子②

「ジュニア夢カレッジ2」詳細・お申し込み方法

産学官民が連携し企画立案をしている「ジュニア夢カレッジ2」の詳細・申し込み方法は、下記の通りです。憧れの職業で働く、プロの職業人から直接指導を受けるチャンスです。お申し込みをお待ちしております。



日時：2016年12月11日(日) 10:00~16:30  
 会場：聖徳大学生涯学習社会貢献センター(聖徳大学10号館)他  
 参加費：無料(要申込み)  
 対象：小学校4年生~中学校3年生

体験実施職業		
1. 新聞記者	6. 幼稚園教諭・保育士	11. 心理カウンセラー
2. パティシエ	7. 建築士	12. 管理栄養士
3. 音楽療法士	8. エンジニア	13. 看護師
4. グラフィックデザイナー	9. キャビンアテンダント	14. 百貨店の仕事
5. 鉄道職員	10. 弁護士	15. 医師

Eメールでお申し込みください。  
 件名に「ジュニア夢カレッジ2参加希望」  
 本文に、項目①~⑨をもれなくご記載ください。

応募締切:11月25日(金)17:00 受信分まで

frontier@seitoku.ac.jp

2日以内(土日祝を除く)に受付完了メールを送ります。  
 届かない場合は、お問い合わせ下さい。

結果発送:11月29日(火) 郵送

12月2日(金)までに届かない場合、生涯学習研究所までご連絡下さい。  
 ※お申込み多数の場合は、抽選とさせていただきます。

<記載事項>

件名『ジュニア夢カレッジ参加希望』

- ①参加希望者氏名(ふりがな)
- ②郵便番号、住所
- ③電話番号
- ④学校名、学年
- ⑤性別
- ⑥保護者氏名、緊急連絡先
- ⑦第1~第3希望職業
- ⑧ご希望に添えなかった場合他の職業でも良いですか はい/いいえ
- ⑨撮影の可否  
研究や広報に使用する場合があります

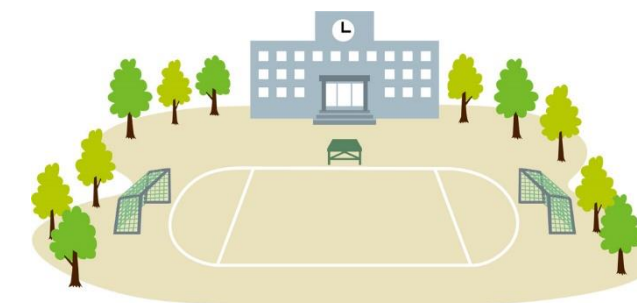


研究授業の様子①

■最後に

私が現在働いている「学校教育」の領域、そして学んできた「生涯学習の領域」、双方は本来分断されるものではないと思っています。なので「生涯学習の領域も知っている小学校教諭」として、何をすることができるのか、今後も考えながら、子ども達一人一人に向き合っていきたいです。

(有川かおり 記)



2016年4月～10月までの研究・実践活動をご報告します。

■アートパーク9～にちようびの野望～ **主催** 2016年7月3日

「アートパーク」は2008年に、生涯学習研究所とNPOをはじめとする地域活動実践者、それをバックアップしている行政が連携し、月1回ペースで実施していた「地域子育て学ネットワーク」という研究会での議論内容を基に、継続的に実施しているアートプロジェクトです。今年で9回目の実施となりました。年々連携の幅を広げてきましたが、今回は新たに、松戸市中学校美術部有志(6校の美術部)が、顧問の先生と共に参画し、さらに連携の幅が広がりました。

当日実施したワークショップは全部で14種類でした。「出航!あつまる丸」(大成ゼミ)「へんしん!お面工場」(西園ゼミ)「へんてこアニマル」(関口ゼミ)「こうえんのまち」(保育科有志+きぼうのたから、きぼうのつばさ)「オオウナバラすごろくかいぞくたちのぼうけん」(千葉大学木下研究室A)「森のシアター『つづく・つなぐ・つどう』」(じゅんびしつ)「パラレル! ?トラブル! 空想旅行写真館」(PARADISE AIR)「公園にマツドラゴンを出現させよう」(松戸市立中学校美術部有志)等が企画・運営を行いました。

当日は晴天に恵まれ、過去最高の1,874名の親子が参加しました。参加者の中には、黙々と自分だけのお面を作っている子や、お化けに変装して周りのみんなを驚かそうと走りまわる子、全身虹色のペンキに塗られた子が、公園内を歩き回っている子がいる等、どの子も真剣に、遊びとアートに向き合っていました。

<文責:谷由美子>



オオウナバラすごろく  
かいぞくたちのぼうけん



森のシアター  
『つづく・つなぐ・つどう』



へんしん!お面工場



公園にマツドラゴンを出現させよう

■2016 ラストサマーフェス&盆踊り **協力** 2016年8月27日

本学からは、地域連携の一環として、本研究所以及短期大学部保育科有志が参加しました。本研究所は「魚釣りゲーム」を実施しました。制限時間(30秒)以内に、幼児4匹以上、小学生8匹以上魚を釣り上げることができたら景品がもらえます。「参加費無料」で実施したため、何度もチャレンジする子どもが続出しました。また、誰が一番魚を釣ったかランキングを掲示したところ、多くの参加者が1位を目指し頑張り、友だち同士で勝負する姿がありました。どの参加者も、とても楽しそうに遊んでいました。当日は、雨にも関わらず、168名の参加者がゲームを楽しんでいってくれました。今後も、地域とのネットワークを構築しながら、研究・実践活動を実施していきたいです。

<文責:谷由美子>



魚釣りゲームの様子

■テーマ別研究会 **主催** 2016年10月29日  
「子育て支援学体系化のためのワークショップ」

日本子育て学会と共催で、テーマ別研究会を実施しました。この研究会の目的は、「生身(なまみ)の親」のニーズを出発点として、「個人」と「社会の成員」としての親の両面を確認しながら、子育てとともに、親の「花の人生」の一環としての子育ての時期をより充実したものにするものでした。



3名の講師によるコメント

当日は、事前に実施していた、4グループ(祖父母、高校生・大学生の母、中学生以下の母、父)に分かれたワークショップの成果発表を契機として「子育て支援学」を、どのように体系化していくかという議論を実施しました。

参加者は「子育ての当事者」は勿論のこと、「社会学」「児童学」「心理学」「生涯教育学」等幅広い分野の研究者が集まり、議論をすることができました。

今後も、積極的に外部と連携し、研究活動を実施してまいります。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

<文責:有川かおり>



子育ての当事者による発表



日本子育て学会青柳慶会長の講義

■第43回 松戸まつり **協力** 2016年10月1日～2日

伊勢丹通り商店会の皆様と共に、「キッズスクエア」の遊具・ゲームの運営補助を行いました。遊びは7つあり、(パターゴルフ、ボール・デ・ビンゴ、リーピングリザード、エイリアンピンボール、輪投げ、サッカーボール・ゴール、フワフワ)どのブースも、参加者が列を作って楽しんでいました。ゲームをした参加者は、好きな景品を1つ選ぶことができるので、どの景品にするか真剣に悩んでいました。

2日目は、伊勢丹通り商店会特設ステージにて、「伊勢丹通りフェスティバル&聖徳フェスティバル」が行われました。本学からは「ハワイアンダンス同好会」「生涯学習研究同好会りりーず(よさこい)」等、多くの同好会が出演し、大いに盛り上がりしました。

1日目は、曇り空でしたが、2日目は好天に恵まれ、多くの来場者や地元商店会スタッフと交流することができました。

<文責:谷由美子>



聖徳大学  
ハワイアンダンス同好会の発表